

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、前計画から切れ目なく新計画を策定し、「湊まちルネッサンス（再興）－湊のにぎわいと交流のあるまちづくり－」の基本理念のもと、平成27年度から事業に取り組んでいる。

計画区域の中心に位置する中町エリアでは、中心商店街の空き店舗跡地に屋台村「北前横丁」が完成し、オープン当初から大勢の来店者でにぎわっている。市外からの来店者も多く、観光交流の面で良い影響を与えているほか、近隣店舗や商店街への誘客といった波及効果も得られている。そういった意味では、江戸期に北前船の往来によって繁栄し、商人の町として独自の湊町文化が形成された本市の歴史を想起させる名前を冠した屋台村の完成は、湊のにぎわいと交流という基本理念に則った中心市街地の魅力向上に大きく寄与している。

このほか、中町エリアでは、官民ともに大きな事業が展開され、実を結んでいる。地域で唯一の百貨店において、集客効果や滞留効果の高いフードコートの整備が一部完成しているほか、別の民間事業者による空きビル改修事業では、高齢者向け住宅やフィットネス施設、カフェ機能等を有する複合施設がオープンするなど、中心市街地へ人が集まる仕掛けづくりが進んでいる。また、市役所の新庁舎（第1期工事）が完成したことで、都市機能の向上はもとより、その外観によって街の雰囲気が大きく変化した。庁舎内には、中心市街地への回遊を促すためのにぎわい交流機能が導入され、気軽に訪れた来庁者が観光パンフレットを手に談笑している姿が見られる。

目標指標の最新値は、上記をはじめとした各事業が完成する前に調査したものであり、事業効果が反映された結果ではないため、観光施設入込数を除いて、基準値よりも悪化している状況となっている。今後も、中心市街地の魅力向上と、各事業間の相乗効果によって周辺への波及効果を高める連携を官民一体となって進めていく。

2. 平成27年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

前計画では、東日本大震災や長期にわたる経済不況といった影響を受け、大きな効果が期待された主要事業が未着手となったこともあり、目標を達成することができなかった。今年度は、前計画から切れ目なく策定した新計画の初年度であったが、前計画で実現することができなかった屋台村「北前横丁」がオープンするなどし、中心市街地に新たなにぎわいが創出された。

そういった中で、広く市民、観光客を街なかへ呼び込もうとする視点が重要となっており、特に二次交通についての工夫が必要である。現在の地域課題に対してしっかりと向き合い、活性化への取り組みを進めていきたい。

今後の事業進捗が予定されている市街地再開発事業等の主要事業を意識しながら、それぞれの事業を有機的に連動させ、事業効果を最大限に発揮するために、今後とも官民連携して取り組んでいく必要があると考える。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量	2,718 人 (H26)	2,779 人 (H31)	2,482 人 (H27)	—	①
	商店街空き店舗数	99 件 (H26)	83 件 (H31)	103 件 (H27)	—	①
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,571,285 人 (H25)	1,648,000 人 (H31)	1,575,349 人 (H26)	—	①
街なか交流人口の増進	公共・公益施設利用者数	363 人 (H25)	953 人 (H31)	242 人 (H27)	—	①
	居住人口 (参考指標)	2,651 人 (H26)	2,651 人 (H31)	2,615 人 (H27)	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」の最新値（平成27年4月調査）は、基準値と比較して約8.7%（236人）減少している。従前から、中心市街地の歩行者・自転車交通量は減少傾向にあり、酒田駅前周辺に関しては、長らく低・未利用地となっている酒田駅前ジャスコ跡地の影響と、JR酒田駅乗客数減少の影響を受けているものと考えられる。また、百貨店と病院の間に位置し、各路線のバス停が集約している中町モールにおいても減少しており、これは、地元商店街を回遊する買い物客が減少していることが原因と考えられる。このような中、平成27年10月に屋台村「北前横丁」がオープンし、平成28年1月には市役所の新庁舎（第1期工事）が開庁するなど、来街者の増加と回遊性の向上に寄与する取り組みが行われている。中町モール改修事業、中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業にも着手しており、取り組みは順調に進んでいる。さらに、平成28年3月の認定計画変更の際は、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業、酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業、中町モールにぎわい創出フードコート整備事業、てとて中町整備事業、大学連携るんるんバス利用支援事業を新規事業として掲載した。これらの事業を通じて、魅力ある商店街の形成と来街者の増加を図り、減少傾向にある歩行者・自転車通行量を向上させる取り組みを推進する。これらの事業効果により、目標達成は

可能であると見込まれる。

「商店街空き店舗数」の最新値（平成27年8月調査）は、基準値と比較して約4.0%（4件）悪化している。中心市街地の商業力は、自動車社会の進展や、大型店や量販店の郊外出店による商業地の分散化によって低下しており、求心力が回復していない。市と商工会議所が連携して設置した中心市街地まちづくり推進センターによる商店街振興施策の積極的な展開により、新規開業店舗は増加しつつあるものの、空き店舗数は未だ改善していない状況となっている。これは、昭和51年に発生し、中心商店街が広く焼失する被害を受けた酒田大火から40年を迎え、復興時に開業した店主らの世代交代期となっており、後継者不足から閉店する店舗が多いことが原因のひとつと考えられる。このような中、平成27年度の後半には、創業支援センターでの専門家相談を利用した起業希望者によって、オリジナリティある業種の店舗などが複数、開業している。前述の屋台村「北前横丁」も、商店街の空き店舗跡地にオープンしたものであり、空きビルを改修して高齢者向け住宅などの機能を有する複合施設（ととて中町整備事業）もオープンするなど、商店街や地域コミュニティ活性化への波及効果が期待されている。また、集客力の高い百貨店においても、来街者を増やす仕掛けづくりが必要であるとの考えから、中町モールにぎわい創出フードコート整備事業に着手している。これら、商店街の顔となる施設やキーテナント等による新たなにぎわいを活かし、商店街の商業拠点としての魅力を向上させ、来街者の増加、新規開業店舗の増加という好循環を生み出すための取り組みを推進していくことにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「観光施設入込数」については、最新値（平成26年度累計値）が基準値より約0.3%（4,064人）増加した。前計画において整備した「酒田みなと市場」において、新規テナントが好評であることに加え、既存の人気テナントのスペース拡張もあり、入込数の増加に貢献している。新計画の認定以降も同様の傾向が続いており、基準値よりも増加傾向で推移している。平成27年度に策定した「中長期観光戦略」を踏まえ、今後も、各拠点エリアの特性を生かした観光施設の魅力向上、回遊性向上を推進し、観光施設入込数の増加を図っていくことで、目標達成は可能であると見込まれる。

「公共・公益施設利用者数」の最新値（平成27年9月調査）は、現在において既に稼働している2施設（交流ひろば、街なかキャンパス）のみの合計値であり、基準値と比較して約33.3%（121人）減少している。調査結果の内訳の9割以上を占める施設が交流ひろばであり、中でも、屋内遊具施設を有する児童センター機能を利用する方が多い。団体利用客も多く、当日のイベント内容や天候によって左右される要素があるものの、利用者数は、長期的に見てやや減少傾向にあり、特に、平成26年度に近隣自治体でオープンした屋内遊具施設の影響を受け、減少幅が大きくなっている。このような中、平成28年1月には、市役所の新庁舎（第1期工事）が開庁し、庁舎内には「にぎわい交流サロン」が整備された。来街者が待ち合わせなどに気軽に利用しており、設置された多種の観光パンフレットやイベント情報に接するなど、回遊の起点となっている。また、健康増進機能と市民交流機能を導入する予定の中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業にも着手しており、順調に計画事業に取り組んでいる。市民が集う交流のまちを実現していくため、平成28年3月の認定計画変更の際に新規事業として掲載した酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業、大学連携るんるんバス利用支援事業にも取り組みながら、全年齢層を含めた市民活動や文化活動の場、地域コミュニティ活動の場を多面的に創出し、中心市街地を訪れやすい環境整備やネットワーク整備、施設運営に注力してい

く。このため、目標達成は可能と見込まれる。

「居住人口」は、参考指標として位置付けているものであり、基準値の水準を維持することを目標としている。最新値（平成27年9月）は、基準値と比較して約1.4%（36人）減少している。このような中、計画区域の中心部である中町エリアにおいて、高齢者向け住宅などの機能を有する複合施設「てとて中町」がオープンした。市では、移住交流推進事業にも着手しており、街なか交流人口の増進や、都市機能の魅力向上を図っていく。駅周辺エリアでは、酒田駅周辺地区ランドデザインにおいて、求められる機能のひとつに街なか居住機能を挙げており、今後、酒田駅周辺整備事業の中で事業を行っていく。これらの居住環境の整備や居住誘導の取組みにより、目標達成は可能と見込まれる。

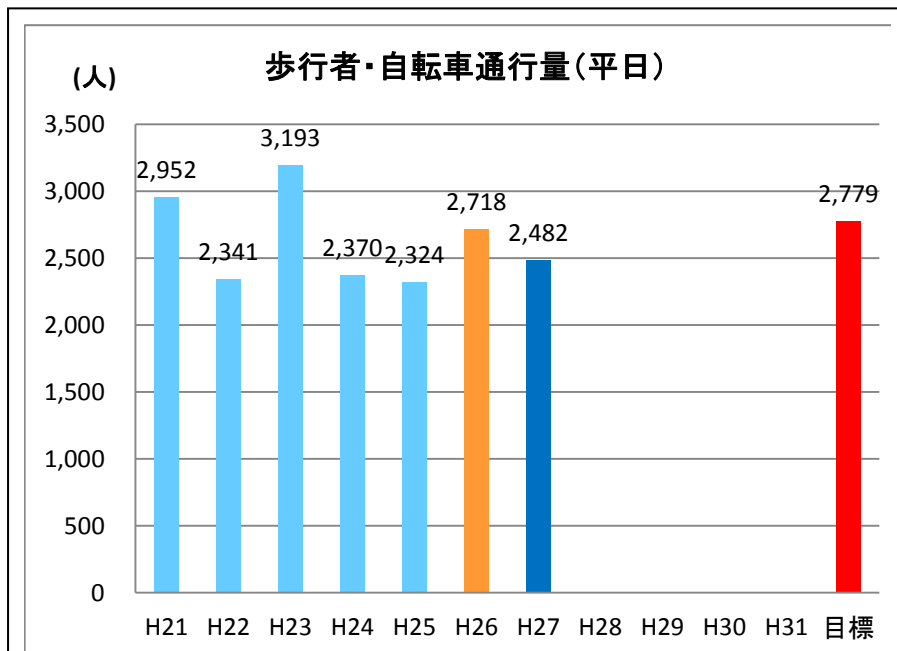
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,718 (基準年値)
H27	2,482
H28	
H29	
H30	
H31	
H31	2,779 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年4月の第4火曜日に3地点において7～19時で計測

※調査月：平成27年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の3地点における歩行者及び自転車の通行量

[ジャスコ跡地前、大通り商店街、中町モール]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町モール改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	中心商店街のシンボリック歩行者専用道路をリニューアル改修し、イベント広場機能や憩いの場としての快適な公共空間として強化整備を行うもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に設計業務を行い、事業実施中である。 当初から計画していた路面改修のほか、より集客性や滞留性を高めるための設備導入を検討しており、平成30年3月の完成を目指している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加20人/日である。

②. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内ににぎわい交流施設を整備し、中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>新庁舎は、平成27年12月に第1期工事が完成し、平成28年1月に開庁した。現在、第2期工事に着手している。稼働した「にぎわい交流サロン」は、来街者が待ち合わせなどに気軽に利用している姿が見られ、設置された多種の観光パンフレットやイベント情報に接するなど、回遊の起点となっている。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加109人/日である。</p>

③. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、街なかを回遊させるための憩いのスペースと、健康づくりの拠点としての健康増進スペースを整備し、中心市街地の交流人口の増加を図るもの。
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年度に設計業務を行い、事業実施中である。平成29年3月の完成を目指している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加84人/日である。</p>

④. 食のさかたチャレンジ事業（酒田北前横丁屋台村運営協議会）

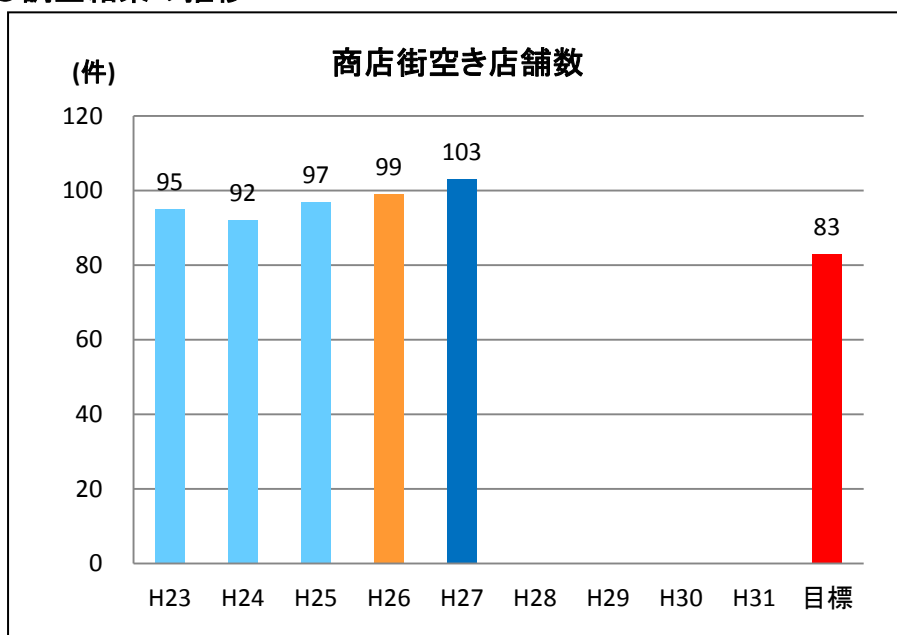
事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	飲食業を志す人を対象に、安価な家賃でのトライアル店舗の開設を実施し、将来の担い手育成、にぎわい創出を行うもの。
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年10月、空き店舗跡地に屋台村「北前横丁」がオープンし、大勢の観光客が訪れている。平成28年3月には整備した10店舗すべてで営業を開始した。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加94人/日である。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗しており、目標達成は可能と思われる。商店街では、「中通りシャングゼリゼタウン事業」（オープンカフェ事業）をはじめとした各種のイベントを開催しており、また、地域で唯一の百貨店においても、来店者を増やす仕掛けづくりとして「中町モールにぎわい創出フードコート整備事業」に着手するなど、民間事業者による工夫を凝らした活性化策が展開されている。今後、完成を予定している事業を含め、それぞれの事業を有機的に連動させながら、中心市街地全体の魅力向上、来街機会の創出、回遊性向上を図っていく。

「商店街空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P. 73～P. 76 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H26	99 (基準年値)
H27	103
H28	
H29	
H30	
H31	
H31	83 (目標値)

※調査方法： 商店街の空き店舗、毎年8月に5商店街において現地調査

※調査月： 平成27年8月

※調査主体： 酒田市

※調査対象： 中心市街地内の5商店街における空き店舗数

[中町中和会商店街、中通り商店街、大通り商店街、酒田駅前商店街、協同組合たくみ銀座]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗改装助成事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者、又は当該店舗を賃貸する者に改装費を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。

事業効果及び進捗状況	<p>官民連携によって開設された「中心市街地まちづくり推進センター」（平成23年4月開設）が所管して事業展開しており、各種商店街振興サービスのワンストップ化を図っている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街の中で、平成27年度に15店舗が交付実績となり、空き店舗の減少に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、「空き店舗入居者支援事業」と合わせ、空き店舗数の減少15件である。</p>
------------	--

②. 空き店舗入居者支援事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	<p>空き店舗を活用して新規に開業する者の賃貸借料を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>官民連携によって開設された「中心市街地まちづくり推進センター」（平成23年4月開設）が所管して事業展開しており、各種商店街振興サービスのワンストップ化を図っている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街の中で、平成27年度に14店舗が交付実績となり、空き店舗の減少に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、「空き店舗改装助成事業」と合わせ、空き店舗数の減少15件である。</p>

③. 創業促進事業（酒田市・酒田商工会議所）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	<p>創業支援センターを開設し、創業相談のワンストップ化や創業塾等の実施により、空き店舗の活用を含めた新規開業を促進するもの。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>創業支援センター（平成26年9月開設）では、創業支援コーディネーターがワンストップで対応しているほか、開業後のフォローアップも行っており、多くの相談が寄せられている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街の中で、平成27年度に7店舗が創業支援を受けて新規開業しており、空き店舗の減少に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、空き店舗数の減少5件である。</p>

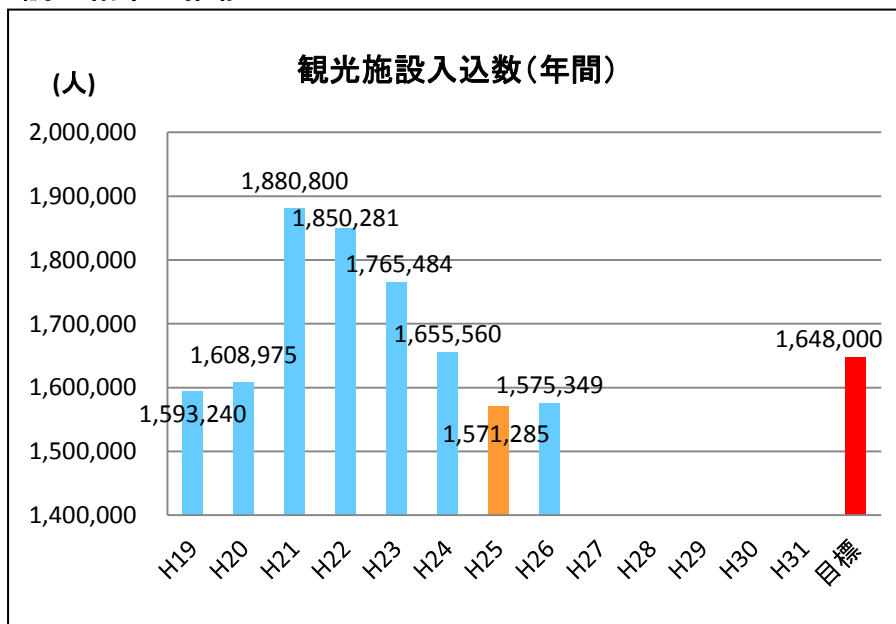
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗しており、目標達成は可能と思われる。商店街の空き店舗対策としては、中心市街地まちづくり推進センターや創業支援センターが官民一体となって事業展開しており、新規開業した店舗のファサードが街に新鮮さを与えている。創業相談には多くの希望者が訪れており、専門的な起業アドバイスや各種助成制度の紹介、開業後のフォローアップまで、ワンストップによるサービスが効果的に機能している。

その一方、廃業などによって新たに空き店舗となる既存店舗も少なくないため、新規開業店舗による波及効果を高め、引き続き、来街者の増加や各商店街の魅力向上を推進していく必要がある。

「観光施設入込数」※目標設定の考え方基本計画 P. 76～P. 79 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	1,571,285 (基準年値)
H26	1,575,349
H27	
H28	
H29	
H30	
H31	
H31	1,648,000 (目標値)

※調査方法：観光施設への入込数、毎年度の実績（累計）を15施設で聞き取り調査

※調査月：平成27年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の15施設における入込数

[山居倉庫（酒田夢の倶楽）、さかた海鮮市場、みなと市場、旧白崎医院、旧燈屋、海洋センター、山王くらぶ、本間家旧本邸、庄内米歴史資料館、海向寺、相馬楼、資料館、NKエージェント（旧割烹小幡）、山居館、本間美術館]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山居倉庫周辺整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【末】
--------	-----------

事業概要	本市で最大の観光入込数を誇り、シンボルである山居倉庫の周辺にある低・未利用地において、山居倉庫と一体的な環境整備を行うもの。
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年度に本市で策定した「中長期観光戦略」との整合性を図るため、具体的な整備内容の策定が当初の予定より遅れている。今後は、市民意見を取り入れるためのワークショップを開催するなどし、戦略的なストーリーに沿う、観光交流機能の向上に資する整備計画を策定し、平成31年度の完成を目指していく。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加36,500人である。</p>

②. 旧割烹小幡改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	映画「おくりびと」のロケ地として注目を集め、その建物の持つ歴史的、文化的価値が見直されている旧割烹小幡を改修し、新たな観光拠点として整備するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>平成27年度に本市で策定した「中長期観光戦略」との整合性を図るため、具体的な整備内容の策定が当初の予定より遅れている。今後は、市民意見を取り入れるためのワークショップを開催するなどし、戦略的なストーリーに沿う新たな観光拠点としての整備計画を策定したうえで、平成30年度の完成を目指していく。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加25,000人である。</p>

③. 中心市街地循環バス運行事業（酒田市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	公共交通機能を充実させ、中心市街地内の回遊性向上を図るための社会実験として、拠点施設や観光施設を巡回するバスを運行するもの。
事業効果及び進捗状況	社会実験として平成27年度に事業を実施し、136日間でバス運行を行った。累計3,159人が利用し、全体の約59%が中心市街地内の停留所で乗降しており、観光客の回遊性向上に寄与した。

④. みなと市場まつり事業（酒田市みなと市場テナント会）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	港エリアの観光拠点のひとつである「酒田みなと市場」を活かし、みなとオアシスならではのイベントを開催するもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度においては、酒田市みなと市場テナント会の協力のもと、市場前に特設リングが設けられ、プロレス団体によるチャリティー大会が開催された。約200名の来場者があり、港エリアのにぎわい創出に貢献した。 目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加1,000人である。

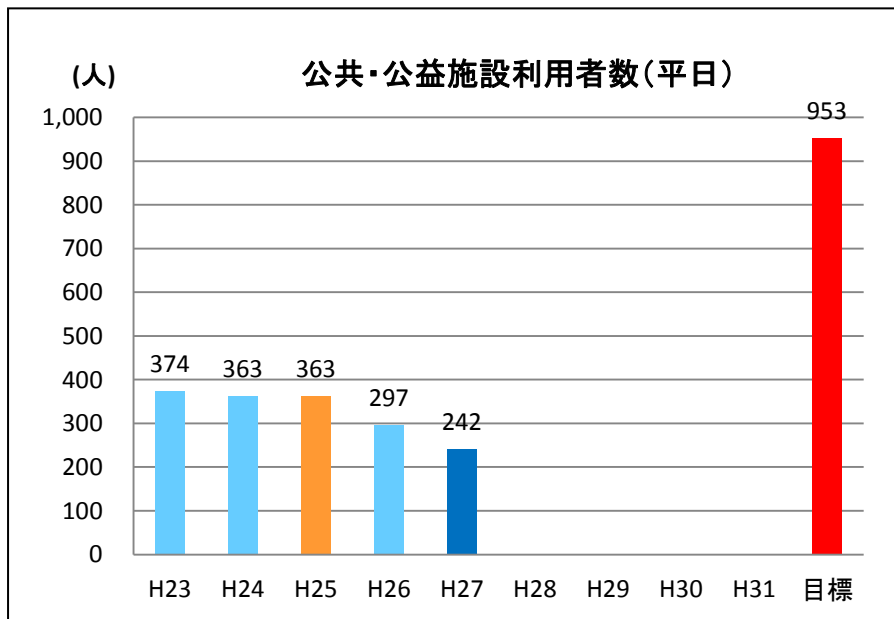
●目標達成の見通し及び今後の対策

ハード事業については、本市において平成27年度に策定した「中長期観光戦略」との兼ね合いから、各事業の具体的な整備計画を当該戦略に則ったものにする必要があるため、事業進捗に遅れが生じているものの、市民ワークショップの開催をはじめ、整備計画策定に向けた準備を進めている。

今後、社会実験として実施した中心市街地循環バス運行事業の分析結果も踏まえながら、各拠点エリアの特色を意識した魅力向上を図り、相乗効果による街なか観光の推進を図っていく。

「公共・公益施設利用者数（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P. 79～P. 81 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	363 (基準年値)
H26	297
H27	242
H28	
H29	
H30	
H31	
H31	953 (目標値)

※調査方法： 公共・公益施設の利用者、毎年9月の第2火曜日に5施設において計測

※調査月： 平成27年9月

※調査主体： 酒田市

※調査対象： 中心市街地内の5施設における利用者数

[交流ひろば、街なかキャンパス、市庁舎（にぎわい交流施設併設）、中町庁舎（改修整備）、中町にぎわいプラザ（仮称）]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、街なかを回遊させるための憩いのスペースと、健康づくりの拠点としての健康増進スペースを整備し、中心市街地の交流人口の増加を図るもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に設計業務を行い、事業実施中である。平成29年3月の完成を目指している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加200人/日である。

②. 中町庁舎改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【未】
事業概要	中心商店街に隣接する空き庁舎予定の公的不動産を有効活用し、市民活動や文化活動等の拠点としてリニューアル整備するもの。
事業効果及び進捗状況	具体的な整備内容を検討しているところであり、平成31年度の完成を目指していく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加130人/日である。

③. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内ににぎわい交流施設を整備し、中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。

事業効果及び進捗状況

新庁舎は、平成27年12月に第1期工事が完成し、平成28年1月に開庁した。現在、第2期工事に着手している。稼働した「にぎわい交流サロン」は、来街者が待ち合わせなどに気軽に利用している姿が見られ、設置された多種の観光パンフレットやイベント情報に接するなど、回遊の起点となっている。

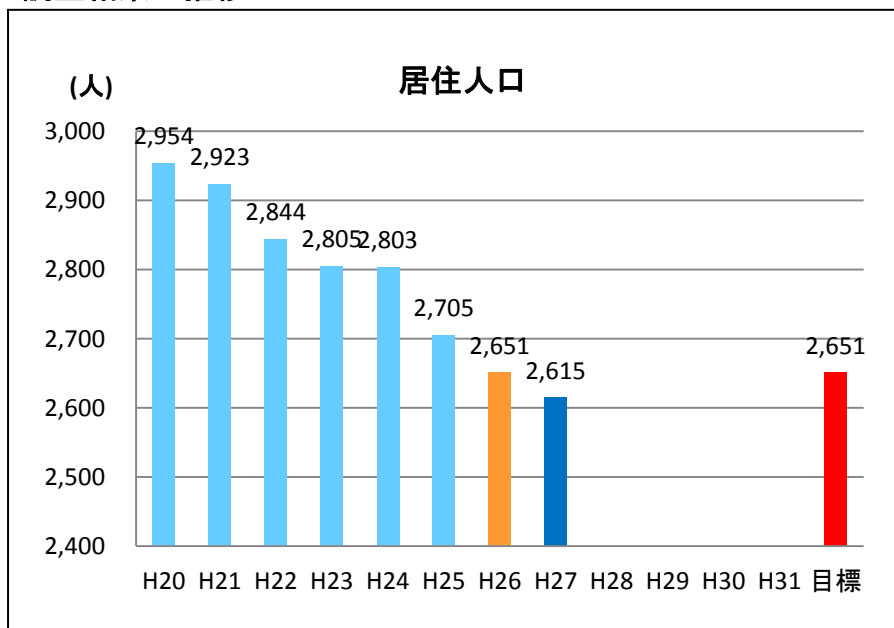
目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加260人/日である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗しており、目標達成は可能と思われる。公共・公益施設利用者数の最新値は、現在において既に稼働している2施設の実績となっているが、基準値と比較して減少傾向にある。計測日に行われるイベントや展示内容のほか、天候によっても左右される要素があるものの、街なか交流人口の増進に向け、効果的な事業展開を行っていく必要がある。今後、開設する施設を含め、それぞれが連携しあい、中心市街地に来街しやすい環境整備を通して、にぎわいあふれるまちづくりを目指していく。

「居住人口（参考指標）」※目標設定の考え方基本計画 P.81～P.82 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,651 (基準年値)
H27	2,615
H28	
H29	
H30	
H31	
H31	2,651 (目標値)

※調査方法：居住人口、毎年9月末時点での住民基本台帳により12町丁で調査

※調査月：平成27年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の12町丁における居住人口

[船場町一丁目、船場町二丁目、日吉町二丁目、幸町二丁目、二番町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、山居町一丁目]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 【追加】 てとて中町整備事業（株福祉のひろば）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	中心商店街に位置する空きビルを再生し、高齢者向け住宅やフィットネス施設、カフェ等の複合施設として整備するもの。
事業効果及び進捗状況	高齢者向け住宅として20戸が整備され、平成27年10月にオープンした。現在のところ、満室には至っていないが、今後の街なか居住人口の増加が期待される。また、フィットネス施設やカフェ等の機能を有しており、中心商店街という立地環境もあわせ、世代を超えた地域コミュニティの増進に寄与するものと考えられる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

居住人口は、参考指標として掲げているものであり、街なか居住人口の減少に歯止めをかけていくという意味合いから、目標値は基準値と同数に設定しているものである。

即効性のある住宅供給事業を直ちに実施することは困難な状況であるが、年々、減少傾向にある人口動態の中で、中心市街地の魅力を高め、交流人口の増加や都市機能の向上が求められている。引き続き、居住誘導を図るための支援事業を実施していくこととあわせ、民間の投資意欲を促進させる都市環境の整備を推進していく。